

「小さな子どもたちにも科学を楽しんでもらいたい!」。そんな思いから、当時5歳の娘と「子どもが子どもに教えるサイエンスショー」に挑戦しました。

この取り組みは、2歳下の息子が加わるなど形を変えながら続いてきました。そして、小学生の姉弟で300人規模のステージに立つたり、保護者なしでも誰一人退室することなく1時間楽しめるサイエンスショーを実現したりと、さまざまな挑戦を重ねてきました。



大阪成蹊大准教授 福岡亮治



⑦ 12歳のパフォーマー

子どもが子どもに教え、成長



ん区切りを迎えました。しかし、その一方で「これまで親子で積み上げてきたノウハウを生かさないだろうか」とも考えていました。そんな中、子役アロタクシヨンのご縁があり、12歳の女の子「じゅんちゃん」とサイエンスショーを行うプロジェクトが立ち上がりました。

正直、「わが子以外でもできるのだろうか」という不安はありました。しかし、元々5歳の娘でも取り組めるように構成していたこ



と、そして、何よりじゅんちゃんの高い意欲に支えられ、半年の練習を経て、先月、大阪科学技術館にて「サイエンスJr.」というコンビ名で本格デビューを果たしました。

で親子でつくり上げてきた笑いと学びが詰まった「エデュテイメント サイエンスショー」をしっかりと再現することができました。「12歳なのにすごい!」「楽しく学べました。来場者の方々の声や、写真撮影を求める列ができる様子もうれしかったのですが、何より心に残ったのは「楽しかった〜!」という500人以上の観客の前に緊張していたじゅんちゃんの舞台後の第一声。「子どもが子どもに教えるサイエンスシ

ョーは、見る子どもだけでなく、演じる子ども自身の成長も引き出します。その手応えを改めて実感しています。新しい相手となったじゅんちゃんと保護者の方も「もっと挑戦したい」と前向きです。今年度末に開催される全国大会「科学の鉄人」での優勝を目標に新たな一歩を踏み出していきます。そして、いつか海外でも「子どもが子どもに教えるサイエンスショー」を実現したいと考えています。12歳のパフォーマーの誕生は新たなスタート。この一歩が世界へ広がっていくことを楽しみにしています。